

1 平成16年度 中高連携英語力向上プロジェクト 研究推進構想 飛驒地区

研究協力校： 下呂市立萩原南中学校

岐阜県立益田高等学校

これまでの取組と生徒の実態

中学校

「話すこと」に重点をおいて指導してきたこと、合衆国に提携校をもち、生徒同士の交流の場を設定していることで、生徒の「話すこと」に対する抵抗感が少なくなり、授業でも積極的に話をする姿が見られる。しかし、話す内容や使用する英語が難しくなると、「話すこと」に対する意欲がやや低くなる。

高等学校

中学校の授業の流れを大切にし、生徒参加型の授業になる内容を多く取り入れてきた。また、音読や構文の暗唱を取り入れたことで、音声の面からも生徒は自信をもつようになった。4つの領域をバランスよく考え、すべての授業をコミュニケーションに行なうことがまだあまりできていない。

プロジェクトを通して付けたい力、大切にしていくこと、明らかにしたいこと

『話すこと』の指導における中高間の系統化の在り方

- 「話すこと」における、中学校・高校の目指す姿の明確化
- 基礎的・基本的な内容の定着を図る指導の一層の工夫
- 「話すこと」に重点をおいた指導の工夫（幅広い表現力につながる語彙の増加、ALTの効果的な活用、All English を目指した学習環境）

平成16年度の具体的取り組み内容

中学校

研究テーマ 生徒一人一人が豊かな表現力を身に付けていく学習活動の工夫

- 課題意識や願いの明確化
 - ・系統性や発展性のある指導計画の作成
 - ・単元オリエンテーションの工夫
- 必然性のある追求の場の設定
 - ・多様な学習活動・形態の工夫
 - ・高まりが感じられる指導過程の工夫
 - ・個に応じた指導方法の工夫
- 高まりを自覚できる評価
 - ・ねらいに即した評価
 - ・単位時間における評価の工夫

高等学校

研究テーマ 自分の考えや意見をより豊かに表現するための指導の工夫

- 基礎的な力を定着させる系統的・継続的な指導の工夫
 - ・基本例文の暗唱（反復練習）
 - ・音読テストの実施
 - ・使える語数の確実な増加
- 表現活動の場の確保と工夫
 - ・スキット作り ・ディベート体験
 - ・具体的に表現できる題材を用いた活動の設定と発表の場の設定
 - ・パソコンソフトの活用

